**他では見られない夕日スポット**

九州西端の五島列島の中でも、大瀬崎は最西端に位置します。沖縄の島々を除けば、日本で最後に夕日が沈む場所です。

**一人佇む、絵画のような灯台**

岬の先には大きな灯台が立っており、そこから放たれる光は日本最大級の明るさで知られます。一人佇む灯台は、東シナ海から吹き付ける波風に曝されています。灯台まで足を進めると展望台に至り、周囲の雄大な景色を一望することができます。晴れた日には、海の彼方に男女群島が見えます。

**並行に走る岩脈**

灯台は、海岸から突き出た大瀬埼の先端にそびえています。ゴツゴツした岩の塊とも言える岬は五島層群に属しており、アジア大陸から来た土砂が堆積して作られました。第三紀に、日本列島のもとになった地形と、アジア大陸との隙間に堆積してできたのが、五島層群です。

岬の西側（海側）からは、玄武岩の岩脈が見えます。岩肌に平行に走る、何本もの深い亀裂に見えるのが岩脈です。規模はより小さいですが、ここ以外でも大瀬崎の岩壁では同様の亀裂を見ることができます。

**珍しい花**

大瀬埼は花や鳥でも有名です。日本のレディーベルであるシマシャジン（学名Adenophora tashiroi）は環境省により絶滅危惧種に指定されています。シマシャジンは明るい紫色の小さな花で、五島列島では大瀬崎の野原にしか自生していません。灯台から歩いて行ける場所でも見ることができます。開花時期は9月中旬から11月上旬です。

**中国へ向かう1万の鳥**

秋にはハチクマ（学名ペルニス・プティロリュンクス）など、空を飛び抜ける渡り鳥の群れを見ることができ、大瀬崎の名物になっています。ハチクマは翼幅1mをゆうに超える巨大な猛禽類であり、一目でそれと分かります。9月中旬から10月上旬にかけて、数週間の間に1万羽以上が西に向けて飛び去っていきます。ハチクマは中国を横断して、インドネシアにまで達します。苦労せずとも、1日のうちに数百羽が飛ぶ姿を見ることができます。

**ぜひお越しを！**

一見、退屈で寂しい場所に見える大瀬崎ですが、灯台の雄大さや岩壁の興味深い歴史、珍しい花々や頭上を飛び交う巨大な鳥の群れなど、大瀬崎は人を惹き付ける魅力に溢れています。